

< 研究成果の紹介 >

削耕方式の水稲不耕起直播栽培

農業研究部作物グループ

1. 成果の内容

水稲の省力化のため本県で開発された削耕方式の水稲不耕起直播栽培技術について、適地条件を明確にし、本格的普及に向けて技術の改善を図りました。その結果、平成 13 年度、約 6 ha の栽培に取り組みました伊勢市の経営体では実収 8 俵以上とほぼ移植並の収量が得られています。

(1) 導入適地

本直播栽培の適地は、春先には乾田状態で播種作業が容易で、かつ入水後は地下水位上昇等により水持ちが確保できる地域です。

(2) 技術の改善点

チウラム水和剤の種子粉衣により播種期の前進が可能となり、3月下旬播種でも苗立ちが安定します。処理濃度は乾物重量の 0.5% です。

不耕起播種機は施肥同時 7 条(又は 9 条)、条間 25cm です。播種量は塩水選後の乾籾 7kg/10a、播種深さは 2 ~ 3cm です。

全量基肥に用いる肥料は LP70 + LPS80 + LPS100 配合で、施肥位置は播種条同条です。

窒素施用量はコシヒカリ 8kg/10a、その他品種 10kg/10a です。

除草剤処理は 3 回、出芽直前のグリホサート、ヒエ 4 葉期までのシロホップ・ブチル・ベンゾゾ、及び入水後の一発処理剤が基本体系です。

2 葉期以降に入水し、中干しは不要です

2. 技術の適用効果と適用範囲

コシヒカリでも倒伏せず、適地に導入すればほぼ移植並の収量が得られ、移植水稲との作業競合が緩和され、規模拡大につながります。

導入適地は伊勢湾岸低湿地帯の中粗粒グライ土及び細粒灰色低地土水田です。

3. 普及・利用上の留意点

冬季代かきは実施可能地域は限られますが、ほ場均平、漏水軽減、及び雑草抑制に有効です。

播種深度が浅いと籾が露出し鳥害を受け、深いと出芽が阻害されます。

土壌表面にクラスト(土膜)が形成され、出芽を阻害する場合は一時入水を行い、土壌を軟化させる必要があります。

(現茶業研究室 青 久)



不耕起播種・施肥(3月下旬)



出芽揃い(5月上旬)



入水後(6月上旬)



生育中期(7月上旬)



収穫期(9月上旬)